



俳諧田か子箋

全

8
3869
103



3869
103

利
3842
37

いろは部分目録

い	いそくと	四丁	いそく	十二	いそく	二丁
い	いしんみ	九丁	いしん	十五	いしん	三丁
い	いさだり	七丁	いさだ	十六	いさだ	十六
い	いそく	十五	いそく	廿六	いそく	三十
い	いまのほふ	廿一	いまのほ	廿八	いまのほ	三十五
い	いそめ	廿四	いそめ	三十	いそめ	四十一
い	いそく	廿九	いそく	三十七	いそく	十九
い	いそく	卅九	いそく	六丁	いそく	五丁

大正七年五月吉
室井平藏 氏贈

ちよここと	五丁	おるど	二十	おるり	三十
ちよここと	八丁	おほい	日	かま	卅二
ちよここと	十丁	おほい	廿六	かま	卅九
ちよここと	二十	おほい	卅二	かま	卅十
ちよここと	十九	おほい	一丁	かま	卅十一
ちよここと	卅五	おほい	十丁	かま	卅丁
ちよここと	卅一	おほい	十七	かま	卅六
ちよここと	日	おほい	廿二	かま	卅五
おほい	十一	おほい	十八	かま	卅二
おほい	十九	おほい	廿七	かま	卅四

ちよここと	廿一	おほい	八丁	かま	卅五丁
ちよここと	十三	おほい	三丁	かま	卅八
ちよここと	十丁	おほい	十三	かま	卅二
ちよここと	十八	おほい	廿一	かま	卅五
ちよここと	廿七	おほい	廿八	かま	卅一
ちよここと	十八	おほい	日	かま	卅四
ちよここと	廿三	おほい	三十五	かま	卅九
ちよここと	日	おほい	四十	かま	卅十
ちよここと	廿六	おほい	四十二	かま	卅日
ちよここと	三十七	おほい	九丁	かま	卅十三

ひとびら	十九	ひねり	十丁	まごい	二十五
浮世どや	廿五	はぐみ	十六	結ッて	廿三
おかい	廿八	まきま	十八	けらる	廿九
うけ	卅五	くれて	三十	がく	九丁
うら	卅四	くびまる	三十	あき	十一
おこん	卅七	あめ	三丁	あつ	四十二
じら	卅二	あつ	二十	あつ	廿四
浮世	十丁	あつ	三十二	あつ	日
のど	卅一	あつ	十二	あつ	廿六
く	五丁	あつ	十四	あつ	三十三

くら	三十三	あつ	二十七	あつ	十一
くら	卅六	あつ	二十九	あつ	十六
くら	四十二	あつ	三十	あつ	四十三
くら	四十三	あつ	三十三	あつ	十三
くら	四十四	あつ	三十五	あつ	七丁
くら	十四	あつ	三十七	あつ	十八
くら	五丁	あつ	四十	あつ	二十
くら	十五	あつ	四十一	あつ	二十六
くら	廿三	あつ	四十三	あつ	十丁
くら	日	あつ	三十三	あつ	八丁

あぐろりや	三十七	あぢぶあ	卅六	あひてあ	卅六
あぐろりや	卅九	あぢぶあ	卅六	あひてあ	卅六
あぐろりや	十七	あぢぶあ	二丁	あひてあ	卅五
あぐろりや	二十	あぢぶあ	三十一	あひてあ	卅七
あぐろりや	卅五	あぢぶあ	卅二	あひてあ	卅八
あぐろりや	卅九	あぢぶあ	十二	あひてあ	三丁
あぐろりや	二丁	あぢぶあ	十七	あひてあ	四十三
あぐろりや	四丁	あぢぶあ	十八	あひてあ	
あぐろりや	十七	あぢぶあ	廿六	あひてあ	
あぐろりや	卅三	あぢぶあ	四十二	あひてあ	

青州堂油人評



鐘がらる

大寺小寺は母の
 獨の女の老の
 去捨くすまの
 夏ハ乳貫ハ角力
 賣涙ははるまの
 合せ乳よある谷どるり

君も淋しき武士の猿
歴てくくくお針が改
化粧とよばるる迷ひはあ

わくわくと

延紙交るるのなる
猿と歌く鎮らるる
鞠帯のなるなる

いらくくと

烈刺が折るる腕様子
望ど水も流るる
男月利の
すくあての長仇神圖
笑方が長理いふがくや
笑の下の流るる
白泉も経ぐ土用干

春の日は皆明くる
位に花をよめて花の裏
に花をよめて花の裏
丁稚の羽の帯乃るる

春の日はと

帆の巻るる行くさき

春の日はと

花よさうぐさ長イ素
墨絵の香と除けて

洗がもるる

病人と能くちかふ下女
もよるときど心新は

わ

一ふ追ふ難も春乃枝
稚が身をも命人の屑
云れ同ゆく松丸を
母を多暇とまぐに
織習ふもよおとら
程盛きくんの際り

涼しや

あめりち

今^{いま}見^みてゐるといふ^{いふ}事^{こと}は
楊^{やう}枝^しで^で何^{なに}も^も火^ひ入^いの^の火^か
白^{しろ}ぬ^ぬい^い時^{とき}て^て葉^はも^も砂^{すな}
と^と振^ふして^{して}振^ふぐ^ぐ後^{のち}家^か
舟^{ふね}の^の謎^めも^も有^ある^る座^ま交^ま志^し
舎^や子^この^の氣^き遠^{とほ}い^いと^とさ^さー
把^て種^{しゆ}賣^うも^も茶^{ちや}乃^の乃^の乃^の乃^の
江^えの^の淋^{しみ}し^しき^き花^{はな}商^{しやう}人^{にん}
生^{せい}業^{ぎやう}も^も焚^くら^らり^り水^{みづ}

出^いて^て登^{のぼ}

妻^{つま}組^{ぐみ}み^み志^し越^こふ^ふ心^{こころ}母^{はは}
志^しの^のろ^ろと^と
己^{おのれ}を^をい^い後^{のち}又^{また}不^ふあ^あい^い
い^いと^とく^くと^と

豆^{まめ}産^うで^で房^{ふさ}に^に思^{おも}案^{あん}ら^ら
己^{おのれ}を^を把^ての^の髪^{かみ}ゆ^ゆい^い継^{つぎ}母^{はは}
皆^{みな}之^の後^{のち}と^と中^{なかつ}み^み二^に人^{にん}が^が服^{ふく}
深^{ふか}く^く齒^はで^で火^ひ線^{せん}が^がり^り
下^{した}の^の百^{ひゃく}夜^やと^とな^ない^い活^{くわく}

法日初

能ぬぎゆをて離る

子りうがゆふ福屋の類

幕赤くぬるにみ猪子

取く箸みおふ柳

舟戸一唱に旅出立十

汗力と知家庭はくろ

けごと押くれしとよ

時をもちうり乃穢多決

宣花、をき茶をん賣

塚もやう遊し幸於婆賞

耳葉を捲し小人語

石自由でも名ハゆき

柳連くふ赤情地

延彼妻控らる涙

月定友、ゆく脊笈

物解し新らしく飾る

茶器はく及ふ向の標

浮例は面と蟹乃根

丁とよ

刷毛干は神よ届く枝
帆相渡る楫乃反り

ア、コトヨ

羽のも食めて浪花洲
ゆく楫田の賣は 解
掛い日初ぬ中と素

うれく

海一の魚も素行を

海のそら

乙姫の巾着のい一階

結い髪子持ちとみぬ
去用干務つ物いまに

そい来

世の仙術いお危なり
ますこ藤掃子の有新艘

おこく

計で鬼突くお性の徒
をく鳴る尾とぬも付ケ
湯女のはありし入ま 寝
後、備し又尋とあやい

いさぶらよ

悪は組と終忍こが
あ欲先、はく 遊風
そん程つめて秋の怪
まごたを志くぬ船のあ
かて胃イとを鯉つみ

きりぎりすと

位持ちりふ疲とた
ま花の初めあらるう
魚若もふんよまをル骨

きりぎりすと

蒙^{うきぶ}の^の後^のと^と人
旅人の蒙^{うきぶ}よ^よ時^とと^と孫^{のら}ふ
持^もり^りを^をあ^あか^か孫^{のら}孫^{のら}
ふ^ふを^をあ^あの^のる^るが^が蒙^{うきぶ}こ^この^の
開^{ひら}け^けの^の初^{はつ}と^とそ^そける^{ける} 村

らよこ〜

喉^{のど}を^をあ^ある^る形^{かたち}み^み迷^{まよ}い^いよ^よ尼^に
登^{のぼ}り^り下^{くだ}り^りく^く蒙^{うきぶ}の^のあ^あら^ら
淡^{あは}れ^れの^のう^うみ^み解^とけ^けの^のあ^あら^らも^も代

とまはりの

昏明の庵の出入女房
不二の髪入る花折風度
中々の羅るまじり年紙
御珠の病て居る二の症

扇もは門ク 中々以
終極のうらやまを
はえの有り度乃 猫
無用の服は入るもの
眼も又眼鏡出に 男

露の二階も借ル血
細くお字で禱ぐ
千練は終有り 落居
敷入は春うらぬら
延紙、脊中であがり嫁
作病とある先まの目
交領まゝ名ありし女
似て字を移る好く癖
深とこまじき二月礼
森乃下メ風と子その

会比よ

知り仕う事と病いと書
袴の着乃れなくも裾
襪で品とりきり母く

三女まよらそ侍る地揚々

あゝ〜

妾の衣櫛と小挑灯

一ちんよ

あゝ頼る長き枇杷の花
涙も酒飲ハえゆるさる

あゝいさ

去りゆく病る長理有髪首
釋乃ゆれむと心 後せ

ゆめくると

猪鬃髪とかけし利振
人買の飯をむ 沖
水溜りから 籠乃汁

はせ

紅葉の花と三十九
露首のむと 西風裏

浮せり

能く首尾の有り長袴
羽振の芳ふらん 録

人乃是よと膝もぬき
悪國淋しきもら細工
家名のあがる七小町
淋しさのなまぬ人
尾よ伝る子の練やあ
仕着せの機は有るま
再此の人よさうらま

いつくげ

流生よ流波の四苦若栴
糸で蕨をとぬく一ぢぢ
麦地後の切こごら
様よりしまし志もたが繩
舟よ糸糸さうふく

はむらぎ

富つさぬさふり堂
今よあつらんやとどく
す中の一とどく

あひく〜

あひく
あの巔^{テリ}平^ヘより三千坊^{ボク}
又十^ト口^ク那^ナ志^シ下^{シタ}百^{ヒャク}姓^{セイ}
千^チ鱒^{マス}同^{ドウ}屋^ヤの飯^イ此^{コノ}糧^{リョウ}

あひく〜

あひく
糠^カの尿^{シユ}志^シはあま^マさ
生^ナれ付^ツての糞^{コノ}子^シす^スら
よ^ヨお日^ヒ極^{キョク}此^{コノ}度^{タク}と^ト居^イ
い^イう極^{キョク}よ^ヨち^チや^ヤ七^{シチ}所^{ショ}一^{イチ}さ
何^{ナニ}で^デ食^シて^テお^オし^シぬ^ヌる^ルさ^サへ

あひく〜

あひく
か^カの^ノて^テ極^{キョク}よ^ヨ志^シめ^メの^ノあ^アい^イり
怪^カ気^キす^スら^ラ気^キは^ハた^タい^イの^ノ尻^シ
戸^ド後^ゴと^トさ^サぐ^グす^スあ^アと^ト起^ツ

あひく〜

あひく
沙^サ幸^{コウ}乃^ノ車^{クルマ}梯^{ハシ}娘^{ムスメ}く^ク
車^{クルマ}よ^ヨ湯^ユ衣^イの^ノさ^サぬ^ヌ息^イ
切^キ急^{キウ}乃^ノ我^ガを^ヲ沙^サ志^シ
い^イや^ヤぐ^グら^ラ目^メと^トあ^ア後^ゴの^ノ
目^メを^ヲす^スら^ラて^テお^オし^シぬ^ヌる^ルさ^サへ

ゆゑかき

飯の斤熟茶扱の柄
後義友堂より
てらちおころふ二階裏

かきかき

と次房うんで素祓ごの
怪我すりののや茶瓶の
先日記ごうつうと
長家とふごの茶の
餅もまんぢも堂儀

よついでよ

梅香ひねる法界の
あらあうあいの娘めが灸
つてああるく女子の礼
鼻かんでやふ隣れ子

ちがふあ

版のあんだい後わり
布設包ますで長老扱
後でういことあどの心
わいらひまをもたま下

ぬいぢり

ちつとんぢりかかると
じふ五ルかゝ根性骨
継一さ中ぢりやと

侍り

は辨坊ち辨坊
おまご正月ふいつと
お集ごといよ神目
ういぢりのとこのぢり
これくつそこ一ツ

わけ

後向方一く
氷室乃役とつた
坊が薬付ク砂糖
寺入すりあやの
屋根やが後合燻

ひつ

後家と尻目よ
子の鼻つまじあや
まぐりぬぐる中

ついでついで

そ八橋をこころう中
あつものぢやなき堂れり
死にてもよみ舞臺をび

ついでついで

餅やのかくと軍小屋
とどり代りなよらつさい子
あじよおまを坊めが牧
こまんとびりよまふせは袋
小刀はつ 何このいろ

ついでついで

やくさいがさい流し 秘
やつしり乳母が女房ぞん
小おとこ 秘魔志をみり
所へはつ 秘灸をい

ついでついで

ついでついでのぢやいのおづら
ついでついでついでの餅
か子柄のぢやいのおづら
何れもぢやいのおづら

ついでついで

よしののどや

舞^ミ麻^マち^チの^ノも^モく^ク海^{ウミ}物^{モノ}
白^{シロ}う^ウん^ンが^ガの^ノ尾^ビ流^{リウ}の^ノ番^{バン}
み^ミと^トも^モお^オじ^ジの^ノ各^{カク}々^{クク}集^{シユ}
よ^ヨい^イふ^フが^ガあ^アの^ノの^ノこ^コの^ノこ^コ
づ^ヅら^ラく^ク糸^{イト}の^ノ水^{スイ}び^ビは^ハ

たふがまじく

月の^{ツキ}さ^サや^ヤの^ノま^マの^ノこ^コい^イ鬼^キ
み^ミん^ンれ^レ中^{ナカ}で^デひ^ヒら^ラり^リ武^ブ老^{ロウ}
は^ハ眼^{ガン}い^イる^ルぬ^ヌこ^コい^イま^マ

のろいんぶ

中^{ナカ}よ^ヨら^ラり^リの^ノ多^タび^ビに^ニま^マ
さ^サあ^ア疔^{ホウ}瘡^{ソウ}の^ノ一^{イチ}太^{タイ}事^ジ
厭^{ヱガ}面^{メン}よ^ヨこ^コん^ンと^トの^ノら^ラめ^メい

あゝりや

鉄^{テツ}火^カと^トい^イふ^フと^ト膽^{タン}禁^{キン}岩^{イハ}色^{シキ}
あ^アん^ント^トさ^サら^ラれ^レ七^{シチ}月^{ゲツ}め

え合て

我^ワ魚^{イサ}お^オが^ガび^ビ非^ヒ正^{テイ}祥^{サイ}
一^{イチ}い^イと^トし^シら^ラの^ノ後^{キョ}仕^シ盆^{ボン}
お^オも^モや^ヤぞ^ゾい^イと^トあ^アら^ラか^カ娘^{メイ}女^メ

ちりまやぬ

徳お徳うはくいやう
足ぬくくろ身がぬやう

ふくかろ

何やちろそい獲たの血
取かこよけても云後前
ううを庭子やれうういあ

かかろ

煖能うはくぐが何百終
さんちやれ女房あんどい
いさーとひさきり穢壇

うそらう

徳おひびきびくろ腹
うーつひどのい骨と骨

ぬしぬき

鼻臭と徳う丑、玄念
鼻のいちやげか乳母
百五返りううのか

かんもく

あたらうちやんを世生格

いよこく

かこくまよれ子が葬の依
すうのぞ結白る眠

きうんくわん

繪るよ鬪る者おのづから
耳がをさいうちをちがん

くれまーん

おとこよ隙をひらり
ちそござれいれおる母

神んく

それきそのくし林
鯨さうらうと百返
惣嬭の虫と月夜
あひらひまそちうか

くわんくわん

尻の狩いごさうやげん
鼻にあうくで我の侍
いささかうりて里尻
ちうわとさうらうと
後ちがどので旦那様

あつてん

あつてんがぬるまきす
うさきのそまや丸印巾
これあが様といふおま

ひすくろく

おとしのやがたふあ
うぐろくや、兵庫曲
るの尾川へさしりし
福ん志あらん念も、珠板あ
がろそがいとく、九字人
山の葎、もたて料理人

おめでとや

しうあげさまやまきいふま
まあつおまめでは、はまい

後景のお茶室

ちろくろく

ちろく事なれが、あな
朔日乃月、祝儀、色
かく格方れ志のい、窓
公家、流の下部、あふ

はくろく

あはれあふとひくろくわあ
いふいと富士のあや、な
んてあつといろお娘、侍

あらくさや

あらくさやいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男

あらくさや

あらくさやいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男

あらくさや

あらくさやいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男

あらくさや

あらくさやいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男

あらくさや

あらくさやいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男
あらくさやのいぢいことよき男

あらくさや

ほろり

香^カいやぐぐ 松の久
俊^ハ人^ハあいくく
牛^{ウシ}を^シ人^{ヒト}が^カま

あぐれ

お^ハ書^キの^ノ墨^{スミ}で^テあり
只^タく^ク餅^{モチ}を^シ煮^ニて^シく

あぐれ

名^ナ牛^{ウシ}千^チの^ノ親^{オヤ}世^ヨ者^{モノ}
大^{オホ}根^ネ賣^ウが^テ大^{オホ}振^{フリ}く

あぐれ

大^{オホ}根^ネ肉^{ニク}ケ^テ孫^{マコ}の^ノく^クを^シま^マ
ぬ^ヌげ^ゲぢ^ヂや^ヤお^オが^ガ持^{モチ}よ^ヨあ^ア
一^{ヒト}番^{バン}富^フ一^{ヒト} 祓^{ハラヘ}を^シ局^ク

あぐれ

強^{ツヨク}り^リろ^ロぐ^グの^ノ持^{モチ}位^イ冊^{セツ}
常^{トコ}世^ヨが^ガ馬^{ウマ}ハ^ハあ^アの^ノ皮^カ
出^デ家^カの^ノ千^チの^ノ兜^{カブト}つ^ツや^ヤま^マ
持^{モチ}子^コを^シと^トん^ンを^シか^カれ^レは^ハぢ^ヂや
か^カく^クて^テま^マ後^{ノチ}娘^メを^シま^マ

わんさく

みどわしやんをまじ
かきれども 巴(ヒ)がく

うらとて

そらとておび雪の舞
くまさんせしへルと

わんさく

鼓(ゴ)女(メ)でこぼらう後(ウシ)つ
やがれよ焼(カ)こころいかに
あがりまわく 郭(クワ)と
そらとてお

わんさく

たままふあつとわびあふ
是(コ)ころもて 羨(ヒ)みは
こぼれあしやよと食(シ)め
さあはくめく 梳(キツ)つさ
るやんさしやん宿(ヤド)うさ

うらとて

雲(クモ)の旗(ハタ)があま
一字(イチジ)でさし入(イ)る
すまわし下(ゲ)戸(コ)がらま

こころごとく

こころごとく人あはれおれおれ
あはれおれおれおれおれ

いそぎごとく

いそぎごとく人のあはれおれ
いそぎごとくいそぎごとく
いそぎごとくいそぎごとく

あはれごとく

あはれごとくいと拾いお
あはれごとくあはれおれ
あはれごとくあはれおれ

浮世ごとく

浮世ごとくあはれおれ
浮世ごとくあはれおれ
浮世ごとくあはれおれ

よろろごとく

よろろごとくあはれおれ
よろろごとくあはれおれ
よろろごとくあはれおれ

世に活^セよち^ワる

ふうとさうけど^{ガイ}た^コ者^キ
又^キ悪^キする^キやい^キく^キ
来てハ^キ養^キ季^キが^キい^キこ^キま^キぬ

ま^キの^キの^キ

ち^キぐ^キう^キけ^キや^キの^キを^キほ^キし^キち^キ
り^キま^キそ^キあ^キこ^キる^キ娘^キ腹^キ
お^キこ^キに^キ二^キ交^キえ^キ死^キく^キあ^キら^キう

ん^キま^キり^キて

お^キ娘^キを^キ果^キぶ^キの^キよ^キい^キ行^キ居^キ
う^キく^キ三^キ番^キ使^キヤ^キツ^キラン^キハ

こ^キち^キの^キ

さ^キわ^キぬ^キ乞^キの^キ志^キぶ^キう^キで^キん^キ
お^キ笑^キひ^キい^キも^キう^キく^キ甚^キか^キ不^キ
拂^キひ^キ志^キま^キり^キて^キ梅^キ尻^キう^キえ

ぬ^キの^キゆ^キい

武^キ士^キの^キ性^キ根^キハ^キち^キり^キこ^キこ^キお^キ
ま^キの^キよ^キ先^キん^キち^キり^キ旅^キり^キ盗^キ
あ^キれ^キこ^キう^キ極^キを^キむ^キす^キ子^キを^キ
助^キを^キカ^キす^キむ^キえ^キん^キち^キり^キ
あ^キら^キぬ^キ世^キ帯^キと^キの^キか^キう^キの

くしちる

一ツ宛

念入てカミまらや片福共
お袋様やりの女房
それ、おのれおちら
今川の養理りやうまい
ちやつち葉た子と餅花子
牧めぐぬくさうまきん
おのいさす
月やあつぬとらまれの
らありとらまれの

おとぐあり

懐とさす

三月月形よりまきこせ
坊が歌よ帯とさす
えんごのす目うやげど
むうかろつりよま六十
私ぐつて 新えま
子たきんら目を通
どりあげたうとさす
お耳とろつてなまきり

あかき

やらもさいに基おれ
結ムスつきの尻シラいっら目
るのむくんぐあらうさい
一後判イコろちうげれと

かく

じま子の魚イサ性セイ母の垣カキ
将シヤウの矢ヤ祇キハあいら
り子コ産ウマてらけのの
人のふよとらけく備カキ

信出し

市チ東トウ自ジ傍ボウの傍ボウに
あぶらぬ遠トウしよま十
ねぐ佛ブツよせうといり

えん

墨スミの衣イもろくの袖スリーブ
有ウ妻メよへつてとトもモ芳ホウ林リン
ゆいもくるあがう松マツの屋ヤ
くよとあましくあひのこ
母ハハのさい子コととらげめり

ついでゆ

煮餅賣りよ来たれ麻
ちのさい星が月杓
尻こそだぬいぬいのる

あかかき

小僧あらしくあまご経
伯母あやしくや徳が門
さきしがあまき清を

あき

うらとあきてぬ衣
焼餅酒の花づく

あき

あきとらんごよむいこと

あきとらんごよむいこと

あきとらんごよむいこと

あきとらんごよむいこと

あきとらんごよむいこと

あき

あきとらんごよむいこと
あきとらんごよむいこと
あきとらんごよむいこと
あきとらんごよむいこと

あけごして

むきそよぬころちかき足
冬機織りのつらさう
乳母がほろほろ足のだぬ
あびしがこれゆりさあやま
それとやかくしあやま

あけごして

念彼執音のゆちりい
をま天林うこい能
あはれごころあま

あけごして

定家うづくと死で
他ちどののる麻の
あまやうとやうと
あまやうとやうと

あけごして

あまやうとやうと
あまやうとやうと
あまやうとやうと
あまやうとやうと

あけごして

あまやうとやうと
あまやうとやうと
あまやうとやうと
あまやうとやうと

ちやいし

中で目かまふ大堰井
そぐえを流く神送
下戸が鏡ぶす子麻樂

あぐし

二親あしを蝶や花
は美さがれは瓜のうハ
かみ拵のみろくをう
とハありんどもあま
やくらんくとまげあま

とんであぐ

お投のおやがねい
お子とかくる椽のたま
やま細父格の糸屋

ひらうき

あく子とあまの柳敷
あく子とあまの越えの車

のぞくし

おまの神うらまひ
下女が目入くを具形
遣がらんいの旅芝居

ウヤウヤ

家うちがよんど^{ヨシ}養生
法^{ホウ}の^ニ三井の後
よあしひちやう^ニかみ

ウヤウヤ

陳^{チン}場と武士の^ニ途^ニも
志^シがみらびく^ニる^ニ志
志とよせ^ニさ^ニあ^ニり^ニ志
志^シす^ニか^ニあ^ニま^ニす^ニ志
い^ニづ^ニり^ニの^ニよ^ニそ^ニて^ニ志^ニ

ウヤウヤ

物^{モノ}の^ニす^ニと^ニら^ニる^ニ志^ニ
子^シ日^ニ寺^ニの^ニあ^ニま^ニほ^ニぶ^ニ志^ニ
志^シ吹^ニと^ニら^ニる^ニ志^ニ

ウヤウヤ

志^シま^ニり^ニの^ニ志^ニり^ニが^ニ後^ニの^ニ志^ニ
志^シり^ニま^ニう^ニれ^ニる^ニ志^ニ
志^シり^ニま^ニう^ニれ^ニる^ニ志^ニ
志^シり^ニま^ニう^ニれ^ニる^ニ志^ニ
志^シり^ニま^ニう^ニれ^ニる^ニ志^ニ

ねふらうて

眼の敷らむむとくま
人參笑が 思葉 魚
ひうりかやく何孫沈格
うづ〜一振が家より
何なるあら〜三輪の松

おり〜うて

笑あまもやを笑て笑れ
松崎の月あまをんやれ
を靴よかくは三輪の石

おま〜んて

肉ハ火ケあま刀渡格
あまのひあ〜あるにや
われお子格のあまこを母

まら〜んて

今よあまをばあまわと
後よまらりはあまの罪

あ〜まうて

一門のほ〜あまを坊
新とや〜あまを坊
穿人あ〜あまを坊

いふとつら

あどやうあつた死シご後ゴ
よづつとらうて後サト舞マシのノ
ふかこの子コあやのアヤ後ゴ
乳母メがお汁シかめメのノげゲ
後ゴがくクふフでやうヤウまいマイい

あそむの

おやくまマりリやるヤル三途サン川カハ
とト熱ネツ坂イサカもモちチぬヌ器シ
一夜イチヤ志シこコつツ時トキがガうウらラ

あつたつら

ゆユつツしシくクやヤ波ナミのノ月ツキ
野ノ村ムラくクもモやヤあアるルあアれレ
うウつツもモ出デうウらラちチ三サン番バン三サン

あつたつら

あつたツ令レイ祚ソクのノ法ホウ念ネン比ヒ

あつたつら

あつたツあア一イチ家ケがガ何ナニれレのノ
からんカラあアんンあアんンのノ身ミのノむムさサ
あアつたツあアのノまマいイさサくクくク後ゴ
らラくクとトあアあアでデあアつツたタりリ

ちぢいしうか

冥府の姥といふまじい
死んでおろくこも我れん
みだり目々しく娘一
ようしうくとあさつるこ
とや灼のほよつさばり
備所の銃炮そつがさい
懸持王くろくを敷くら
まんと怪しむといふのは

しちうつりて

どうしんも

はつとろて

響意のりふがうりうを
餅はもとらやの餅がふ
あふいっといふもは
逆掃の掃が後の怨
せうしうあべおろくな
川乳母いらてひなま
あふみりぞ
病氣くくがふま
そまはるる娘がう

ちうつかりと

乗流らんありたりしは
すいごうあし一檀の衣
ぶんとかしのいお金利格

うけつかり

この理しあい二理しあい
後よ神りあをり理居者
女の定へふくかきかき
南云何もく、仏あき祥
小奇ささうよべのめてしと

ちうつかり

結句ふあもこがよい女
浪よを次があふたのいめ
うく女のむひはやかせをさ
天狗脚殿り子たう

ちうつかり

人めの雲をまきりぬ
あおつけうをりぬ
下り坂新クニ一れその
長どわらまにかあごと

ちくちくや

これおとこ 塚 女塚
去る夜うらんで世の二女
厄よあつてもあつた月
三年味嚼のこころは
浄瑠璃のあはれあいの辰

きまきま

たがるのうで 梳乃火
いそよあうそそ紋不
げき 蘇峰のまじり身

あこえんぞ

麻してし息物じつあやわ
いくわ麻つえよ枚がま

たぶん

ゆめくか合子み式百足
く子とのまねく死をさよ

ちくちく

神鳴がーして女武ハヤ者
やうぬまうくを扇冠者
んてうの何ぞいさくれあう
こまやく何んまや人の世

藤久殿

暴盤忠信 沖新橋
鳥羽のりぶよ上くそ
大坂内が ぶ仕合
ついで双紙 友よりあり
やまこ次良し起を尻し
たのちのちずりしんを
何ことおんまきま後ハ

めりり

ごうごう

筆持ふまき乃久
あまお姫様 水車
福るのかけいさの
うそがつつもい
さてよぶやうかきまの

くれば

女念仏のあられら
んくぬさうで
いさ

ちりりりり

仏のぢららば傍れふ僧
くまのく牛玉を難い
鯉本よりのや神玄月
ひやうこの世界死でう
やせとどやうこをまてふ

いやくいやく

儼が眼よりかゝる舟
ゆてまてをあらうらの腹
結句なるまゝぬれ世世且

いやくいやく

大黒おろこ 坊の形
みま名はか 鼻は
うーあーハ穂よ出てく
うらうけめせど胸がこ
畳さうりや人のこけ

がらんて

んれは浮世よ何この欲
およぶがあどらうす
まじがつふまらる盧金おん

うしろむ

子の移りゆくいあやふ
何よぶこつちやけいこむたあな
ついでうびぬう病いあ

めそつちや

侍女肩しと云あまの極
らうらう下白をさ極来
孫をいあや子の中遊り
お慰けあうくすあう欠
多いく極いさうあまもさる

かろうあつ

月一そ物事初日と
ちやけいむさうが旦那夜
とつとこづす花を川

つとつて

信根ようむ時の子
諸具の取よはれえん
情糸がもろく

おめでとや

新造の水玉丸らや
よい年あわを死で返

おひてう

知らずやうしうそ始
けりあぬ恋の代おめ
子守が懐へ 待まそ子

おひまやぬ

ろうがいの痛よ長むまし
あ代ののうろ 家慰風
くがきておても火歩石
二三年は月ご子
を敷くひそくまをんやあ

とくひあがろ

いふと お合と金のな
御軒 ヨラヨ すがさるあーも
様うまづけ モ 二尺
御がそーごをひよのく

ちうけく

色よ餌さーのかむ腰
やうくいわれものねい
風がそりく 袂はあそ
おとこおらが オニ 志のくせ

かつえんや

又四恨のそく藤入
信あ坂かん云傳せう

らしくんかう

にんごう

枝川まさもとは
とつてもそとあや
おとこれあちやあひ
わーふあがつく有賊
あさあまーい
とさやれとのひくろ

んまがまい

かいうむたうれ口の
提の子投るすうれ
いづくむ。賣。和。中。散
ありごうて

びうんま

あまはあまらるる
隣子よんちく
うらそあまらるる
七夕橋たん急乃
信原人くく目も

うーろろ

いんくわとあ

一袋刺がせいぞろい
それ且形極太のふん
えんくわいのこぶ階が
おろくは志くふ三郎坊
目とつて極を日善の故

いんくわ

腰のぬき
尾の尻行
鼻

あはれ

あはれ

どうも衣がき
あはれハよいが
け十筋やどあ
右のちまきが
おまを曲掃が
櫛が死でもあ

いんくわ

さくは
二つびあ

十念あがら

又十二次 廣い道
かまれうぞまの姉
法にまあおとや坊を法

さうばく

いふのすりよふも
さうばいしりふれあまれ
又ゆや^{キヨ}の^井のかりぬま
月和が^リの^リの^リの^リの^リ
まのうあしむおむい湯

誹諧書出来目録

小倉のしら	秋乃	梅	田	かり	公	三
菅のせり	公	せ	ん	様		
美むく	鬼	目				
月より	三ッ	目				
松乃	友	子				
和	公	三				
お	る	の				
墨	後	太				
火	鼓					
燈						

書坊
大坂
本屋新右衛門板

